

日刊 動労千葉

79.5.9

No.114

国鉄動力車労働組合
千葉地方本部

千葉市要町二一八(動力車会館)
鉄電二二五八・九(公衆電話)22七二〇七

絶望的策動繰り返す「本部」暴力集団「新小岩支部」折返し駅で

「動労本部」暴力集団は、四月二八日〜五日一日にかけて「千葉地本再建」を豪語し、連日一〇〇名余の部隊を投入しての「全国オルグ」を行ったが、われわれの毅然とした闘いの中で完全に粉砕された。

五月二日以降、その敗北のうわめりをする形で「動労本部」暴力集団は、青年部を中心に、連日六〜七〇名の部隊をもって新小岩支部に、破壊オルグに入ってきている。

第一に、四日間のオルグ破産を隠蔽せんがため、連日全国動員して行ったことが何等成果がなかったのは、一部反動分子が今日まで主張し、宣伝してきた、「分裂組合は少数」「一部の暴力に牛耳られた組合員の解放」「千葉地本再建準備会の旗上げ」などが、全くでたらめであり、動労千葉の正義が鮮明になる。第二に、動労千葉の組合員、とりわけ新小岩支部組合員に対しては嫌気を起こさせ、そのことを通して組織破壊を行う。この「オルグ」の目的が以上のようなものであることは見え見えであり、この間の「オルグ」の破産によってますます焦り、凶暴化し、憎しみを露わりにしていることが特徴である。

われわれは、こうした「動労本部」暴力集団の狙いを明確につかみ、これに対する反撃の闘いを展開している。

われわれは新小岩支部組合員ひとりひとりの闘いに一四〇〇名の総力をあげてこたえてゆかなければならぬ。

小田(青年部中常) 窃盗を認める!

「オルグ団」は連日、六〜七〇で職場を占拠し、各詰所や折返し駅ホームで勤務中の組合員をついまわし、嫌がらせをするなどの暴挙を行ってきている。

新小岩支部に入った「オルグ」は、五月二日、中泉、村上、五月三日、四日と小田(青年部中常)が責任者と名乗り、全くオルグする気けなく、庁舎に落書きをし、看板をかきかえ、天気の良い日は、ひなたぼっこをしている状況で、何人かの極悪分子がかけてやったことは、組合事務所を破壊して入りこみ、引出しをかきまわし、黒板にいたずら書きをし、そのことに対し抗議した支部役員には、当日(五月三日)の責任者の小田は、「署名をしてくれたら、落書きも消し、事務所も元通りに直す。盗ったものは本部に言って持って

きます」と答えている。驚くべきことに、自分たちのやった労働組合にあるまじき蛮行を認めながら、なおかつどう喝する。これが動労四万八千を代表するオルグなのか。

組合員に対する「オルグ」は「動労本部へ脱退届を出せ」と言うに至って、支部組合員に「再登録をやれ」「除名すればいいだろう」と反撃され、口ごもる始末である。五月三日の帰りぎわ、小田などは、「乗務員会長がうんといってくれたから、明日はみんなに署名をもらおう」などとうそを公然と吐くのである。その一方で五月一日には、当の乗務員会長のところへ「中央本部」の城石(組織部長)より、「あなたがいるとみんなが署名してくれない。対応しないでほしい」などと電話がかかってくるのである。なんのための「オルグ」かはっきりしている。

エスカレートする勤務中の乗務員への嫌がらせ

4・19〜20以降の「動労本部」暴力集団の乗入れ組合員に対するやり方も公然とエスカレートしてきている。中野駅乗務員詰所、我孫子駅乗務員詰所、東京駅地下乗務員、武蔵、田端、大宮機関区において、数人がとりかこみ形でやってきているが、動労千葉組合員の毅然とした闘いの前になんらの「効果」も上っていない。東京駅地下乗務員詰所の「オルグ」に至っては、どうしようもなくなり「二〜三人まとまって国労へ行け」などと言いつつ始末で、「オルグ団」が「動労組合員として、動労に戻ってきてほしい」と言う気力すら失っていることを示している。動労四万八千の組織の維持、運動の発展などについて信ずることを説くという「原点」を失った「オルグ」とは一体なにか。

今や、「本部」暴力集団の千葉地本破壊のためのみの「オルグ」の狙いは明白である。

新たな組織破壊策動粉砕!

「中央本部」暴力集団は、電話連絡第三五八号をもって再度の全国動員による破壊「オルグ」を画策している。何度来ても同じだ。われわれは、この新たな破壊策動を断固粉砕する。

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

「動労を脱退しろ!」「国労へ行け!」 これが「オルグ」なのか!

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ!